様式第３

会　　議　　録

会　　議　　名	令和８年度第１回野田市地域福祉計画審議会
議題及び議題ごとの公開又は非公開の別	報告　野田市地域福祉計画【第４次改訂版】令和７年度の事業取組状況及び令和８年度の取組予定について（公開）
日　　時	令和８年７月２７日（月）午後２時から午後３時まで
場　　所	市役所高層棟８階大会議室
出　　席　　者	委　員　須賀田　貞彦　石井　芳子　逆井　一 鈴木　稔秋　石神　勢津子　渡邉　妙美 岡安　誠人　沖田　多恵子　岡田　さおり 鈴木　めぐみ　澤田　健次郎　染谷　よし江 小林　幸男　林　孝和　阿部　真希子 小林　葉子　小森　稔　田西　よし江 事務局　福祉部長　小林　智彦 生活支援課長　池田　文彦 障がい者支援課長　大月　加奈子 高齢者支援課長　里見　秀 介護支援課長　蓮沼　憲治 地域包括支援課長　中山　知子 人権・男女共同参画推進課長　吉田　陽子 野田市社会福祉協議会常務理事　牛島　修二 野田市社会福祉協議会事務局長　牧　浩司 児童家庭課長　宮下　幸治 子ども保育課長　廣瀬　康之 子ども家庭総合支援課長　海老原　純一 保健センター長補佐　山形　好人 市政推進室長　金子　正道 収税課長　西　信幸 人事課長　小嶋　亮 情報政策課長　西野　寛史 営繕課長　髙梨　健 危機管理課長補佐　松井　秀樹 市民生活課長　須賀　良平 商工観光課長補佐　白石　光孝 生涯学習課長　峯崎　光春 学校教育課長　廣居　信和 学校教育部副主幹　宮嶋　理恵

	生活支援課長補佐　原田　陽子 生活支援課主任主事　竹村　直子 生活支援課主事補　渡邉　昌輝
欠　席　委　員	鈴木　剛　　山川　里沙　　門倉　正樹　　岩橋　直也
傍　聴　者	１人

事務局	（開会） ＜本日の出席状況の報告、会議の成立宣言、当会議が原則公開であることの説明、配布資料の確認、異動や任期満了による新任委員の紹介＞
会長（議長）	令和８年度第１回野田市地域福祉計画審議会を開催する。 報告　「野田市地域福祉計画【第４次改訂版】令和７年度の事業取組状況及び令和８年度の取組予定について」、事務局に説明を求める。
事務局	＜生活支援課長より令和７年度の事業取組状況及び及び令和８年度の取組予定について、説明。＞
会長（議長）	事務局の説明について、委員の皆様から意見・質問などがあるか。
小森委員	自殺対策について、自殺を示すサインに対する早期介入について、具体的にどのような事例があり、どのような対応をしたのか。
生活支援課長	自殺対策については、非常にデリケートな問題である。 市としては、具体的な相談窓口や対応方法について、考えていきたいところだがそこまでは至っていないので、まずは１人１人がゲートキーパーという役割を担い、気づきというところから、１人でも多くの人ができるような形で取り組んでいきたいと考えている。 また、市では、昨年、市職員を対象にゲートキーパーに関する研修会を実施している。今後も引き続き、職員を対象にするのはもちろん、事業者

	等にも対象を広げて研修に取り組んでいきたいと考えている。
会長（議長）	ほかにあるか。
田西委員	30代から50代の人の自殺が多いということは、どんな状況の人が自殺に陥ってしまっているのか。 そして、自殺をしないように手助けをするための、例えば引きこもりの方とかについての把握はどうなっているか。
生活支援課長	30代から50代が多いという形で、働き盛りの年代と想定される。 自殺の原因としては健康問題や、生活困窮家庭の問題など色々あるが、特に30代、50代については働き盛りの世代ということで、仕事の面や就労といった面で悩んでいるところが多いと見込んでいるが、原因はやはり様々であるので、全体的な年齢において、原因にもなっている健康等といった部分も含まれていると考えられる。 また、引きこもりの把握については非常に難しい状況になっている。引きこもりの当事者に実際に赴いて相談を受ける、本人が窓口に実際に足を運ぶという一歩もなかなか難しいところもあるので、引きこもりの把握については、具体的に把握していない。
会長（議長）	ほかにあるか。
沖田委員	ボランティア団体として出席している。 ９ページの説明であった市民活動ふれあいフェスティバルについて、2026年度から実行委員会が一本化された。今までこの会議の場で、ここ数年元々あった市民ふれあいハートまつり、市民活動元気アップふぇすた、福祉のまちづくりフェスティバルの３つが同時開催されると言われてきた。結果的には１つ１つの実行委員会がバラバラで横の連携が取れていないため、内容が似ていることもあったことから、本当に行政として実行委員会を１本にして立ち上げていただきたいとここで何度も話したが、ようやく一本化されて動き出したことに私は本当にうれしいなと思っている。

	まだ本当に動き始めたところなので、秋のフェスティバルが終わってみないと、良かった悪かったはわからないが、このような方向に行政が中心になって歩き出したことは本当によかったなと思っており、今年度のフェスティバルに大変期待している。 また、ボランティア団体の方は、どこの団体も高齢化しており、だんだん縮小化して消滅していくような形になっている。60歳で定年の頃は、60、70代はまだまだ若くて色々な活動に挑戦しようかなという方がたくさんいたと思うが、今は65歳どころか70歳まで仕事に就いている状況で、その後なかなか野田市の方で新しい活動をしようと思われる方が少なくて、どこの団体もだんだん新しい人が入ってこない状況である。ましてや50代や60代の方はまだ仕事をしているので、時間がなくて地域の活動に参加できないのが現状であり、どこも先細りと思われる。 一方、社会福祉協議会がボランティア養成講座を開催していて、ここに集まって来る方に期待をしているところである。今年度はちょっと若い方も集まると思っている。この間参加して拝見しているが、本当に若い方が参加することは大切である。なおかつ、まだ高齢でも元気な方が、居場所ができるような活動ができる組織がないかということで、そういうボランティアとか色々な地域の活動に参加を促すような形の政策がとられると良いと思う。 そういうことから、また自殺の方にもつながっていくのかもしれないということを先ほどから考えていた。
会長（議長）	事務局、答弁あるか。
生活支援課長	イベントの一本化については、今取り組んでいる状況である。今年度はより良いものを作りたいという形で担当の方でも一生懸命がんばっているところである。 一番大事なのは市民・関係者全員が一体となって福祉について幅広く認識していくことが望ましいので、フェスティバルの効果については効率よく良いものを作り上げていきたいと考えている。 また、居場所に関しては、様々な問題、自殺等の話も出たが、居場所が

	あるということだけでも社会とのつながり、たくさんの地域の方とのつながり、そういった面で効果があると思うので、協力事業者と連携していきながら居場所づくり等にも取り組んでいきたいと考えている。
会長（議長）	ほかに御質問等がないので、「野田市地域福祉計画【第４次改訂版】令和７年度の事業取組状況及び令和８年度の取組予定について」は、報告了承とする。 本日の議題は、すべて終了した。 本日の会議を終了する。 そのほか、事務局から何かあるか。
事務局	審議会の開催について、今年度は本日のみの予定だが、年度中において審議をお願いする案件が生じたら、審議会を開催させていただく。 今年７月は「社会を明るくする運動」強調月間になる。 社会を明るくする運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、新たな被害者も加害者も生まない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な活動である。 野田市においても、「黄色い羽根」の着用、横断幕の掲示等で啓発を実施している。委員の皆様にも、黄色い羽根をお配りした。お付けいただき啓発の御協力をお願いする。また、“社会を明るくする運動”作文コンテストにおける入選作品の展示会を、７月22日から28日まで、市役所１階ふれあいギャラリーで実施している。帰りの際は、見ていただきたい。
会長（議長）	ほかになければ、本日は散会する。 （閉会）